

■「公園アイデア募集」受賞作品（敬称略）

最優秀賞「実験水槽群や圃場における

教育・研究と共存する緑地帯公園化案」

グループ名：平成25年度実験水槽群利用者

（所属 生物資源学研究科 等）

淀 太我（実験水槽群世話役；生物資源学研究科准教授）

倉島 彰（実験水槽群世話役；生物資源学研究科助教）

神原 淳（生物資源学研究科教授） 他11名

優 秀 賞「緑と触れ合う、明るい遊歩道」

グループ名：メイク（所属 地域戦略センター）

佐藤 明彦（応募代表：工学部建築学科4年）

橋本 奈美（人文学部文化学科4年）

特 別 賞「彩紋の憩い空間」

グループ名：スピロギラ（所属 工学部建築学科）

伊藤 翔平（応募代表：工学部建築学科4年）

小鮎 優（工学部建築学科4年）

二宮 慶士（工学部建築学科4年）

特 別 賞「三重大学おにしお歴史公園」

辻田 真穂（個人応募：人文学部文化学科3年）

■総評

三翠通り北側緑地帯公園化構想アイデア募集には、多くの部局、学生および教職員から、合計10名の応募がありました。スケッチあり、コンピュータグラフィックあり、模型あり、さらにはマスコット・キャラクターありと、多彩な力作が集まり、三重大のキャンパスに寄せる皆様の思いが強く感じられました。入選作の審査は、平成25年10月24日開催の三重大学施設整備専門委員会において、同委員計7名の投票・議論により行いました。

応募作は、大きく3つのカテゴリーに分類できるように思われました。第一に三重大学の重要な研究環境と直接隣接する土地の利用形態として、生態保全などの配慮を尽くした静穏な環境を提案するもの、第二にキャンパス中央の交通幹線に接する土地の利用形態として、歩行者と自転車交通の分離、滞在空間の演出などを提案するもの、そして第三にキャンパス自体に存在する歴史資産の利用、顕在化などを提案するものです。これらのカテゴリーには、それぞれ複数の提案がありました。入選作の選定にあたっては、こうした提案の多様性を保持しつつ、個々の提案の豊富さ、具体性、独創性などを評価し慎重に審査いたしました。

■選評

<最優秀賞：実験水槽群や圃場における

教育・研究と共存する緑地帯公園化案>

隣接する実験施設を利用する生物資源学部の教員グループによる応募です。実験研究とキャンパス・アメニティの向上を両立させ、人間と生物を共生させるために、植生保

全、静穏維持、光害防止など、様々な専門的提案を下さいました。穏やかに静かな緑地環境が醸し出す安心感や充足感が、活動的なキャンパスの演出にとって決定的に重要であることを力強く論じています。

<優秀賞：緑と触れ合う、明るい遊歩道>

現状の樹木を保全するとともに、自転車道を歩道と分離して設け、歩道は緑地帯のなかに木道として設けることなどを含んだ、ストレートな提案です。

<特別賞：彩紋の憩い空間>

現状の樹木帯のなかに網目状の歩道をつくり、歩行者のゆっくりとした潤いのある体験を演出しようとした提案です。病院利用や、通学・通勤時の賑わいに、穏やかさと潤いを演出する建築的手法を含んでいます。

<特別賞：三重大学おにしお歴史公園>

上浜キャンパス内にある「鬼が塩屋遺跡」の顕在化の提案です。マスコット・キャラクター「おにしおくん」からはじまって、ヒサゴ壺の手洗い場、竪穴住居形の休憩所など、予算的にちょっと手の届かない提案まで発想がふくらんでいます。

■審査の様子（施設整備専門委員会）

